2024 年 6 月 26 日

学校法人　三幸学園
札幌スポーツ＆メディカル専門学校
校　長　後藤　寿樹　殿

学校関係者評価委員会
委員長　八田 則之

学校関係者評価委員会実施報告

2023 年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

1　学校関係者評価委員
①　八田 則之　（株式会社ルネサンス　統括支配人）
②　織田 英資　（株式会社シミズ・ビルライフケア）
③　小本 竜也　（第 6 期　卒業生）

2　学校関係者評価委員会の開催状況
2024 年 6 月 26 日（水）（会場　札幌スポーツ＆メディカル専門学校　302 教室）

3　学校関係者委員会報告
以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

2023年度　学校法人三幸学園　札幌スポーツ＆メディカル専門学校
自己評価ならびに学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者　：　副校長　斎藤　政臣
学校関係者評価報告責任者　：　学校関係者評価委員会委員長　八田　則之

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、スポーツ分野の学校として「スポーツを通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、スポーツ分野として「スポーツを通じて健康と楽しさを提供できる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

①　前年度重点施策振り返り

【施策1】

各学科の目標資格の合格率向上に向けて、資格取得の動機づけ、全国統一模試の活用、補講や教科担当との連携を深める。

【振り返り1】

●健康運動実践指導者
学校全体の合格率→**70.9%**（2022年度→63.2%　2021年度→66.2%）

●JATI認定トレーニング指導者
学校全体の合格率→**48.4%**（2022年度→64.4%　2021年度→52.6%）

●アスレティックトレーナー
学校全体の合格率→**48.0%**（2022年度→36.8%　2021年度→50.0%）

●はり師
学校全体の合格率→**80.8%**（2022年度→45.5%　2021年度→58.1%）

●きゅう師
学校全体の合格率→**80.8%**（2022年度→40.9%　2021年度→58.1%）

●柔道整復師
学校全体の合格率→**51.6%**（2022年度→32.0%　2021年度→69.6%）

② 学校関係者評価委員会コメント

八田委員（スポーツインストラクター科）

「健康運動指導士」の資格があれば自治体の仕事を受託することができるので、「健康運動指導士」を重要視している。自治体にとどまらず、一般企業などでも健康運動指導士に対するニーズが高まっている。また社員が取得した場合やすでに取得している場合は名刺に記載することもできるのでお客様との信頼関係を築くきっかけにもなっている。

小本委員（学校全体として）

鍼灸科（はり師・きゅう師）が大きく合格率を上がった要因として、全員で勉強していこうという認識が強かったように感じる。JATI については、スポーツトレーナ一科、スポーツインストラクター科は資格を取得する意欲、資格を取得後にどうなるかがイメージしにくい。基礎を応用していく際に、基礎が身についていない傾向が見受けられる。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

学校理念や育成人材像は、入学時のスタートアッププログラムや学校生活ガイダンスで伝えているが、継続的に伝えることができていない。

② 今後の改善方策

入学時だけはなく、キャリア教育の授業を通じて、継続的に伝えていく。また保護者説明会は対面での実施としてスタートアッププログラムの様子を見ていただくことも考えている。また後期開始時にも学校生活ガイダンスを実施し、継続的に伝えていく。

③ 特記事項

2024 年度保護者説明会においては、スタートアッププログラムの見学と合わせて対面にて実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

八田委員(学校全体について)

従業員向けに企業理念等を伝える会議は毎年行っており、お客様には「企業からのお約束」というカタチで掲示をしていることもある。関連企業に赴くときには、企業理念をお伝えすることもある。

(2)学校運営

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4

① 課題

講師人数も増え、多様化するコンプライアンスやハラスメントについて、認識を統一するのに時間を要する。

② 今後の改善方策

都度の会議にて、多様化するハラスメント種類の知識を増やし、コンプライアンスにおいては様々なケースに対応できるよう研修を実施する。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

織田委員(学校全体として)

e-ラーニングの研修受講が義務付けられており、受講後に確認テストも実施されている。月ごとに内容が変わり、コンプライアンスやハラスメントについても実施される。全員が受講するシステムとなっている。

八田委員(学校全体として)

本質的に知識を深めることと、企業として研修を実施していることの二本柱が必要となる。そのため e-ラーニングの方法が適している。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成･実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育･実践的な職業教育の視点に立ったカリュキュラムや教育方法の工夫･開発などが実施されているか	4
関連分野の企業･関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成･見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技･実習等）が体系的に位置づけられているか	3
授業評価の実施･ 評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価･単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務･兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識･技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

① 課題

・SNS やオープンキャンパスでのイメージで入学してきた学生への職業観（ゴールイメージ）の醸成。

・資格取得の学習が必ずしも即戦力となる学習とイコールではない部分も多い。資格をしっかりと取得させる教育体制と即戦力を備えた人物育成のさらなる両立が必要である。

② 今後の改善方策

・新入生を対象に株式会社ルネサンス様（業務提携先）への施設体験実習を続けていく。体験学習の目的を学校で導入し、職業観の醸成と結びつけていく。

・業界のニーズに合わせた教育課程･授業計画の見直しが出来るように、各エリア担当の情報収集力の強化とそのための仕組みの構築、現職で勤務をしている非常勤の声を教育に反映させることができる環境を作っていく。

・最新の現場動向を知るためにも外部企業と連携した授業を増やしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小本委員（学校全体として）

夢が広がるような話を高校生を対象に実施している。また実際にスポーツクラブの会員として現場で感じていることを高校生に経験談として直に伝えている。将来のゴールイメージが薄い場合は、どのような人と働きたいのかと別の視点からアプローチをしながら高校生の将来像を一緒に探している。

(4)学修成果

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・デジタルネイティブ世代の特徴として対面コミュニケーションが乏しい学生が、クラスでの人間関係を構築できず退学に至るケースが増えている傾向にある。

・自身での職業、業界イメージが先行してしまい、目標喪失から退学に至る学生も見受けられる。

② 今後の改善方策

・ホームルーム等を活用し、チームビルディングを取り入れクラスの関係性を構築するとともに、スクールカウンセリングの活用などメンタル面のケアも同時に実施していく。

・キャリア教育の中で職業観を醸成し、ゴール設定を明確にしていく。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

小本委員(学校全体として)

現場で卒業生と一緒に働く機会が増えており、卒業生として横のつながりができるのは嬉しく思う。卒業生が就職先で活躍してくれることにより求人をいただくこともできると思うので、安定した業界内就職に繋がっていくのではないか。

(5)学生支援

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

① 課題

カウンセリングルームを姉妹校と連携して開催しているが、常駐ではなく開催日が限られるため利用数が少ない。

② 今後の改善方策

担任との個人面談の際にも気軽に利用するように促していく。担任とカウンセラーの先生の連携方法などシステム構築も合わせて実施する。

③ 特記事項

長期欠席者や国家試験に関わる模試の点数が伸び悩んでいる場合など、学校生活に改善が必要な場合に適時保護者へ連絡をしている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

織田委員(学校全体として)

礼儀の中でも特に挨拶がしっかりしていて、玄関前や廊下ですれ違っても挨拶をしてくれるので指導が行き届いている印象がある。

(6)教育環境

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

2024年度も希望者は、アメリカ研修に参加予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】(評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

（8）財務

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第3次中期計画（2023 年度～2027 年度）の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

④学校関係者評価委員会コメント

特になし

(9)法令等の遵守

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

・特定非営利活動法人日本スポーツボランティアネットワークと提携しており、1年次は、「スポーツボランティア研修会」を、2年次は、「スポーツボランティアリーダー研修会」を任意で受講できる仕組みとなっている。

・産学連携しているチームが放課後に当校のトレーニンググルームを利用しており、トレーナーの指導の下、主にアスレティックトレーナー科の生徒が実習をしている。また地域のスポーツイベントの再開に伴い、ボランティア活動も活発になってきている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

資格への動機づけ・通学することの動機づけがキーワードとなる。本人が能動的に動き、将来像を率先的に考えて、自立して考えるきっかけにするために、将来像のイメージをしっかりともってもらうことが重要と考える。

退学者に関しては、保護者との連携をどのように確立していくのか、入社式に保護者が臨席するという時代になってきているので、時代の要請もあり本人・保護者・学校の連携をどのようにとっていくのかが今後の改善策として考えられるのではと思う。2024 年度はスタートアッププログラムと同日に保護者説明会を対面で実施できたことにより、保護者との連携を強化する礎となった。